

第四章

神子畑鉱山

みこばた



社宅が並ぶ神子畑地区(写真奥が選鉱場)



旧神子畑鉱山事務舎(ムーセ旧居)

東洋一といわれた在りし日の神子畑選鉱場(昭和30年代頃)



COLUMN

旧神子畑鉱山事務舎

明治5年(1872)、生野に5棟の異人館の町並みが出現しました。鉱山開発を行う御雇外国人のための工部省の官舎です。設計はフランス技師レスカス。その中のひとつがこの建物で、通称「ムーセ旧居」と呼ばれています。明治21年に、生野から神子畑に大蔵省の鉱山役所として移築されました。翌年には、所管替えによって宮内省御料局の鉱山役所になり、このため現在の鉱山事務舎には、瓦に菊の紋章が残っています。現存する宮内省御料局の鉱山事務舎は、佐渡相川と神子畑の2棟だけです。

その後、大正時代から昭和58年まで診療所などに利用されました。平成4年に県指定文化財となりました。平成16年に保存修理工事が進められ、鉱山事務舎の姿に戻りました。国が推進した日本鉱山の近代化を語る歴史的建造物であり、近畿地方に現存する最古級の異人館でもあります。



神子畑鉱山の足跡

神子畑鉱山は平安時代に開山したと言われ、15世紀から採鉱が盛んになったとされています。

神子畑鉱山が最も繁栄したのは、明治10年代から30年のこと。明治の新政政府が生野鉱山周辺を調査した結果、明治11年(1878)に新鉱脈が発見され、生野鉱山の支山「加盛山」として銀の採鉱が始まりました。

しかし、明治40年以降は鉱脈が減少し、新鉱脈を探すことになりました。明治42年に明延鉱山で錫脈が発見されたことで、採鉱は明延に移りました。神子畑鉱山は明延鉱山の鉱石を選鉱する「神子畑選鉱場」に生まれ変わりました。

東洋一の選鉱場

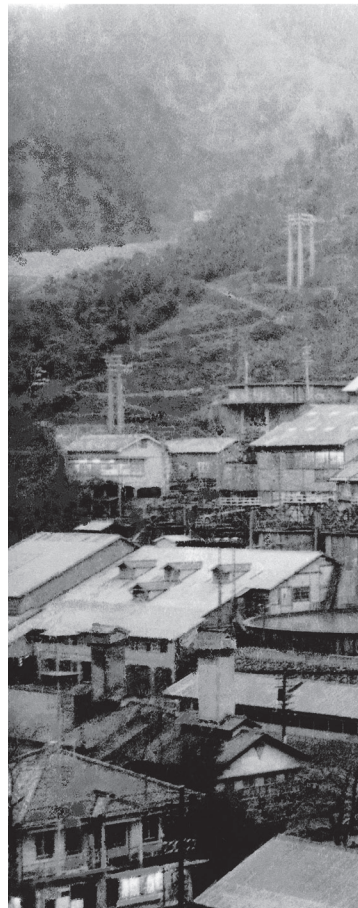
明延鉱山で採鉱された鉱石の選鉱場となった神子畑は、大正8年(1919)に錫の選鉱場を竣工。昭和9年(1934)には硫銅選鉱場を開設し、昭和15年の拡張工事を経て、「東洋一」と言われる選鉱施設となりました。

選鉱場跡は、平成15年(2003)の調査で、内部の階層は延べ22階、幅110メートル、斜距離165メートル、高低差75メートルという規模が確認されています。木造部分と鉄骨部分があり、一部鉱石などを入れる容器としての鉄筋コンクリート造の部分もあります。

選鉱場跡に佇む通称「ムーセ旧居」は、元々生野鉱山に建設された



現在の神子畑選鉱場跡。周辺は公園整備され、間近で見学できる。



外国人宿舍のひとつです。神子畑鉱山の開発にともない、明治21年にこの地に移設され、鉱山事務舎を経て診療所などに利用されました。昭和30年頃の神子畑地区には、約1300人もの人が生活していました。鉱山が経営するスーパールの購買会、映画を上映した協和会館や文化会館（卓球・柔道・ビリヤード）など、福利厚生施設も充実していました。

明治33年にはいち早く鉱山私立の神子畑小学校が創立（後に公立）。最盛期には2300人を超える小学生が在籍していました。今も残る体育館は、昭和30年代の最新技術であるプレコン工法で建てられた貴重な遺構です。

昭和62年（1987）、明延鉱山の閉山にともない、神子畑選鉱場の操業を停止し、閉鎖しました。その建物は長らく残っていました

が、平成16年に老朽化のため取り壊され、現在はコンクリートの基部

やシックナー（液体中に混じる固体粒子を泥状物として分離する装置）の一部等が残っています。

現存する日本最古の鑄鉄橋

国道429号沿いに架かる神子畑鑄鉄橋は、日本に現存する全鑄鉄製の橋としては最古のもので、国指定重要文化財（建造物）です。

明治11年（1878）、神子畑鉱山で良好な銀鉱脈が発見され、明治14年に本格開坑。その鉱石を生野鉱山の製錬所に運搬するために、輸送用道路が必要となりました。

神子畑から生野まで16・2キロ、幅員3.6メートルの馬車の鉄道（鉱山軌道）が整備され、神子畑川には多くの橋が架けられました。

この工事は明治16年4月から2年間に渡って行われ、総工事費4万



日本最古の全鑄鉄橋「神子畑鑄鉄橋」（国指定重要文化財）

円をかけた大工事でした（現在の約4億円）。この時、一番上流にかけられたのが神子畑鑄鉄橋です。

鑄鉄橋とは鑄物で造られた橋のこと、全国的にも珍しい橋です。

設計から施工までを全て日本人が行ったもので、御雇外国人と呼ばれたフランス人技師の力を借りずに作りました。美しく組まれたらん干やたて格子の横材には、日本的な特徴が見られます。

木橋、石橋から煉瓦橋へ、さらに鑄鉄、錬鉄、鋼鉄の橋へと変わっていく日本橋梁史の流れの中で、神子畑鑄鉄橋はその過渡期的なものです。鑄鉄橋の歴史の中で最終段階の形式であり、歴史的価値の高い貴重な文化財です。



COLUMN

一円電車里帰り

「道の駅あさご」で展示されていた一円電車が、平成24年春、23年ぶりに朝来市佐囊の「神子畑選鉱場跡」に里帰りしました。帰ってきた車両は、電気機関車、客車「わかば号」、貨車の3両。昭和62年の明延鉱山閉鎖に伴い、廃線となった一円電車。神子畑選鉱場跡に常設展示されることになりました。

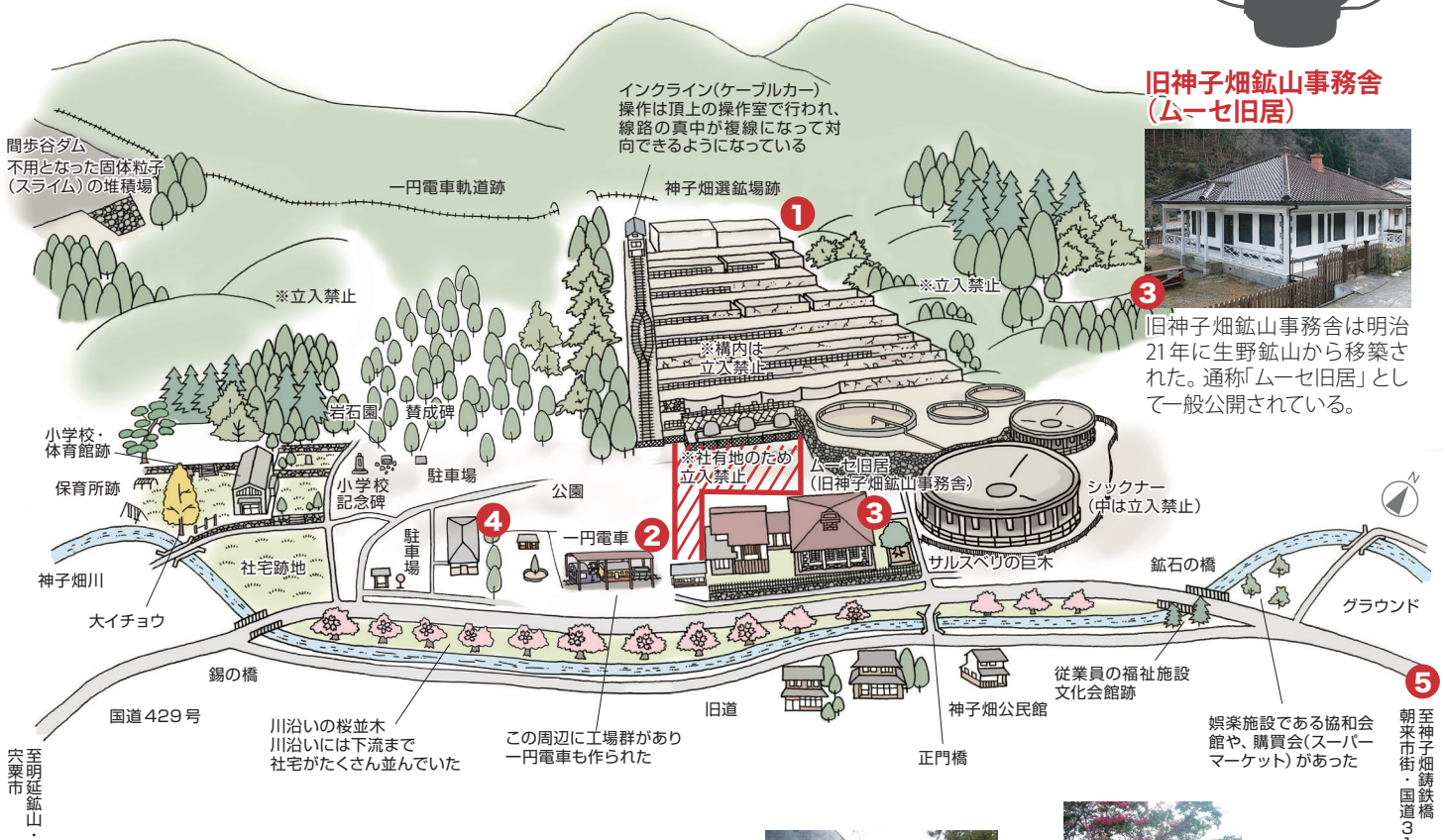
一円電車は、神子畑の他に明延や生野でも展示されています。それらの電車は全て明延鉱山工作課の神子畑機械工場で製造されたものです。現在、神子畑で展示されている場所がまさに一円電車が生まれた工場の跡地です。電車の製造や修理も大切な鉱山技術のひとつでした。



神子畑選鉱場前の公園に展示されている一円電車。元々はこの場所で製造された。



神子畑 みこばたMAP



旧神子畑鉱山事務舎 (ムーセ旧居)



旧神子畑鉱山事務舎は明治21年に生野鉱山から移築された。通称「ムーセ旧居」として一般公開されている。

インクライン(ケーブルカー)
操作は頂上の操作室で行われ、線路の真中が複線になって対向できるようにしている

間歩谷タム
不用となった固体粒子
(スライム)の堆積場

※立入禁止

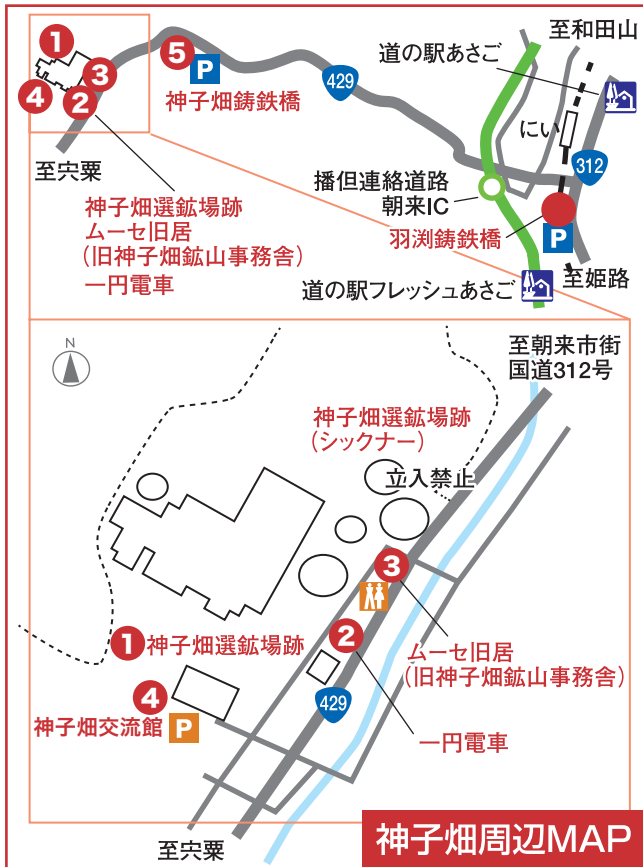
※立入禁止

※社内のため立入禁止

シクナー
(中は立入禁止)

至
穴栗市
至
明延鉱山

5
朝来市街・国道312号
至
神子畑
鑄鉄橋



神子畑小学校跡の体育館は珍しいプレコン工法。



ムーセ旧居前にある「サルスベリ」は県指定郷土記念物。開花時期は8～9月頃。

4 鉱石の道 神子畑交流館・神選

神子畑エリアをはじめ、鉱石の道の魅力を発信する観光交流拠点。鉱石の道ジオラマや神子畑地域の資料・展示に加え、オリジナルグッズなどの販売をしている。

1 インクライン・シクナー



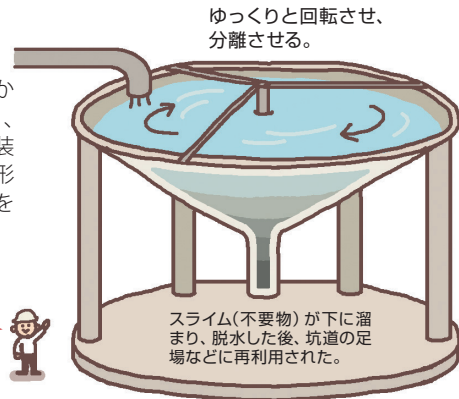
(右)液体中に混じる固体粒子を分離する装置「シクナー」は百尺(約30メートル)の他に、55尺(約16メートル)がある。(左)選鉱場の昇り降りを行った「インクライン(ケーブルカー)の軌道跡」。頂上の操作室から手信号で乗降が行われた。(※構内は立入禁止)

選鉱施設を大解剖

シクナーの仕組み

微細な個体が混じった液体から、水分を除いて濃縮(脱水)、固体物を取り出す非ろ過分離装置。シクナーと呼ばれる円形の水槽で、鉱石と水分・薬品を分離して精鉱を回収しました。

円錐の形にはこんな
秘密があったんだね!

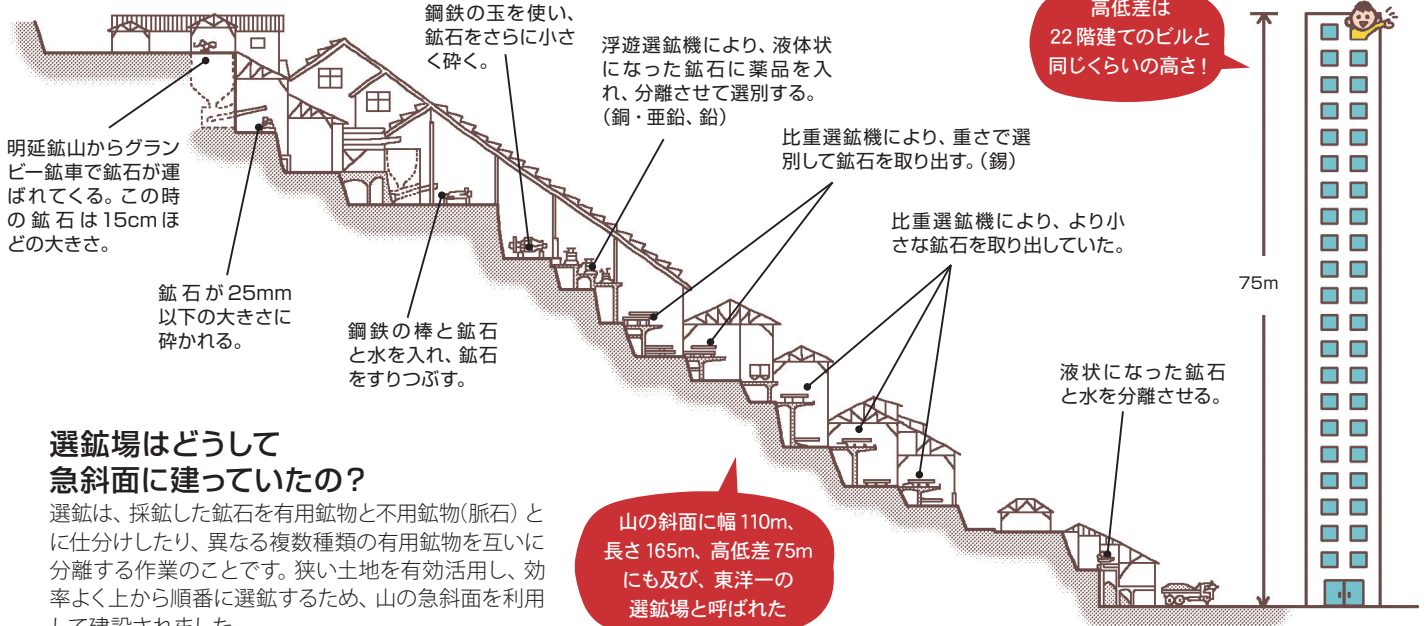


インクライン

傾斜面にレールを敷いて、動力で台車を動かして貨物を運ぶ装置のことをインクラインといいます。ケーブルカーと構造は同じで、貨物用の場合、特にインクラインと呼びます。神子畑選鉱場は傾斜地に作られていたので、各フロアの物と人の移動を担っていました。巻き上げ機で台車を2つ繋いで斜面を往復していました。操作は頂上の操作室で行われ、線路の真中が複線になって対向できるようになっています。

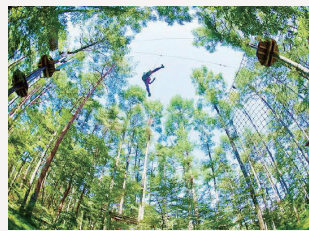


神子畑選鉱場 断面図



選鉱場はどうして急斜面に建っていたの?

選鉱は、採鉱した鉱石を有用鉱物と不用鉱物(脈石)とに仕分けたり、異なる複数種類の有用鉱物を互いに分離する作業のことです。狭い土地を有効活用し、効率よく上から順番に選鉱するため、山の急斜面を利用して建設されました。



さのう高原

中国山脈の美しい山々を眼下に、パラグライダーの絶好のフライトエリアとして知られる高原です。自然を活かしたアドベンチャーパーク「フォレストアドベンチャー・朝来」では、手軽に本格アスレチックを体験することができます。

【所】兵庫県朝来市佐のう
【問】朝来市観光交流課
079-672-4003



道の駅あさご 村おこしセンター

国道312号線沿いにある道の駅。地元の新鮮な野菜などが店舗前に陳列しており、冬季になると朝来市特産の岩津ねぎも並びます。施設内のお食事処「ささゆり」では、あっさりした鹿肉定食が女性に人気! 鉱石をイメージした「あさご鉱石バーガー」が土日祝限定で販売されています。

【所】兵庫県朝来市多々良木 213-1
【時】物産・野菜販売店: 8~18時、レストラン: 9時30分~16時
【休】1/1 休館 【問】079-678-0808



あさご芸術の森美術館

多々良木ダムの下に広がる緑深い静けさの中に、大きなモニュメントが溶け込んだあさご芸術の森があります。美術館では、朝来市が生んだ日本を代表する彫刻家・淀井敏夫のほぼ全作品を常設展示する他、企画展示などを行っています。

【所】兵庫県朝来市多々良木 739-3
【時】10~17時(6~8月は9時30分~17時/入館は閉館の30分前まで)
【休】水曜及び祝祭日の翌日・展示替え日
【料】大人500円、高校・大学生300円、小・中学生200円
【問】079-670-4111



国史跡 竹田城跡

山城遺跡として全国でもまれな完存する遺構であり、天守台は標高353.7mの山頂に築かれています。現存する遺構は、赤松広秀の入封(天正13年)後、文禄・慶長期に作られたものと考えられています。別の名を「虎臥城」とも呼ばれ、国の史跡に指定されています。秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に朝霧が発生し、雲海は但馬地域の風物詩になっています。

【所】兵庫県朝来市和田山町竹田
【問】情報館 天空の城
079-674-2120

近隣ガイド